

文化伝承のために伝統文書の複製(写本)と電子化活用

電子写本

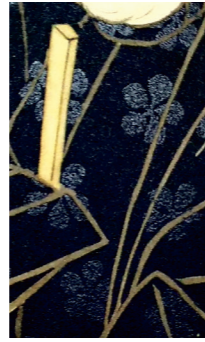
複製本

- ・原本そのまま「複製」or「復元(劣化修正、汚れ除去)」が選べる
- ・和紙が使用できる、金、銀、白、朱色やクリアが使用可能
- ・→原本にそっくりの状態に複製(写本)を製作

- ・標準4色と和紙使用の複製
- ・特色+標準4色+和紙使用の複製
- ・規格外仕上げ 大判軸、長尺物、模型なども対応



豪華な金をゴールドトナーで再現



木版の雲母摺り(きらずり)はクリアトナーで再現可能

◀例
金使用
特色+
展覧会
運用

花見短冊(はなみたんざく) 1598年
豊臣秀吉が最晩年に京都の醍醐寺三法院の山麓において催した花見の宴での短冊。豊臣秀吉・北政所・淀殿らの近親の者を初めとして、諸大名からその配下の女房女中衆役1300人を召し従えた盛大な催しでした。秀頼、利家などの名前があります。



展示の様子



画像を活用した商品製作例
所有者様の理解を得た画像が入手できれば、さまざまな用紙を使って再デザインし、利用価値のある製品を作ることが可能です。



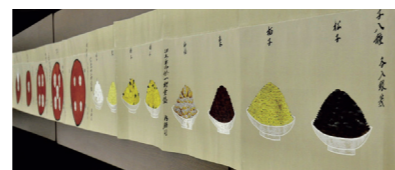
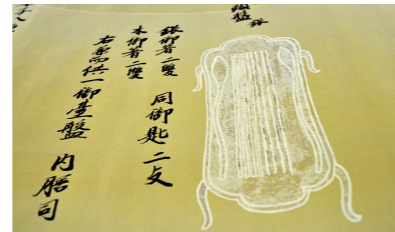
◀例
規格外
天判掛軸
保存・管理

成相寺参詣曼荼羅
(なりあいじさんけいまんだら)
参詣者の勧誘と霊場案内を目的として、成相寺(京都府宮津市)を描いた宗教的絵画。複製品は成相寺本堂で展示されています。

原本 デジタルデータ化



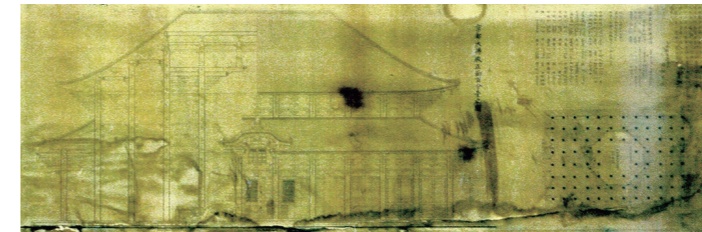
完成したデータはWEBで絵巻のデジタルアーカイブとして公開中



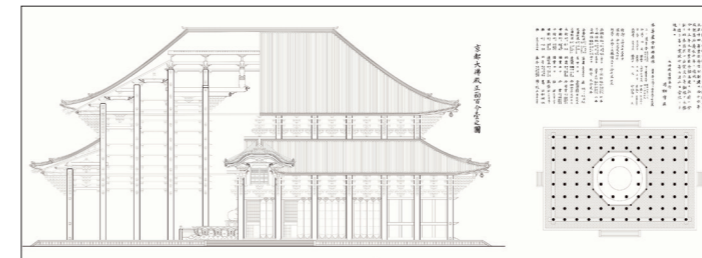
写真は完成時の様子。上はその部分拡大、白トナー使用。紙は原本に似た和紙を使用しています

正月三節会御膳供進之次第
(しょうがつさんせちえごぜんきょうしんのしだい)
五代 將軍徳川綱吉の生母・桂昌院が、俗名 玉の輿神社=今宮神社(京都市北区)に贈った正月の供物の図録。京都西陣の八百屋に生まれ、三代將軍家光に見初められ側室になった桂昌院は、故郷の氏神を崇敬し、社殿を立て替え・氏子地域を拡充させるなど、多くの復興に貢献しました。

◀例
特色+
WEBアーカイブ



損傷の激しい原本(上)の状態から慎重にトレース後、完成した図面(下)
右下の模型は図面をもとに250分の1サイズに立体化したもの



豊臣秀吉が東大寺に倣って大仏(盧舎那仏)を安置するために天正14年(1586年)から10年もの歳月をかけて造られた寺院の図面。
文禄4年(1595年)には、南北88m、東西54m、高さ49mの巨大な大仏殿が完成し、高さ約19メートルの木製金漆塗座像が安置されますが、翌年、京都を襲った慶長大地震によって大仏は大破してしまいました。その後も大仏殿と大仏は焼失と再建を繰り返し、現在は巨大な石垣の一部だけが残っています。

デジタル文化財活用

デジタルデータ保管

- ・ページ調整、面付編集作業済データで保存
- ・pdfデータにて、ディスク納品も可能
- ・保管データの有効利用をご提案
- ・データ保存し、最新OSに最適化
- ・WEB連携アーカイブ運用
- ・運用、管理 データに合わせたイベント企画など提案いたします



グラフィックレコード
グラフィックレコードとは、人々の対話や議論の内容を整理して、リアルタイムで見える絵に仕上げる表現手法



◀例
標準仕様
運用(講演会)

上 原本、下 複製
歳中覚(さいちゅうおぼえ) 1790年
奈良屋杉本家三代目書き記した文献で、いわゆる年中備忘録といった性格を持っています。祝儀不祝儀の決まり事に至るまで細々と指示されています。内容の変更があれば、修正箇所紙を貼って上書きし、時代時勢に合わせた柔軟な変更によって、今日まで伝承が滞りなく続いています。



当社フェアにて。奈良屋杉本家の杉本歌子さん

◀例
規格外
長尺図面
保存・管理

